

秋田県埋蔵文化財センター一年報 1

昭和57年度

1983.3

序

近時各種の開発事業が進展するに伴い、県内の多くの埋蔵文化財が私達の周囲から失われつつあります。申すまでもなく文化財は私達の祖先が長い年月にわたり営々と築きあげてきた歴史的文化遺産であり、これを正しく理解し守り育てていくことは、現代に生きる私達にとっては重要な責務の一つであると考えます。県内でも県北の東北縦貫自動車道をはじめとする道路の建設、都市部とその周辺における工業団地、宅地造成などの開発、また農村部にあっては圃場整備事業などの構造改善事業が進行し、貴重な埋蔵文化財が危機にさらされています。

このような状況下における埋蔵文化財の保護対策の一環として、当埋蔵文化財センターが昭和56年10月に設置されました。その業務は県内の埋蔵文化財の調査・研究はもとより、市町村への専門的指導助言、担当職員の研修等を行う機関であり、改めてその任務の重大さを痛感いたしておるところであります。

埋蔵文化財センターとしましては設置の目的を遂行するために堅実な基礎作りに努め、前記の諸活動を行うとともにその運営についても常に一般県民や研究者の利用をも配慮し、開かれた埋蔵文化財センターとして文化振興に大いに寄与できるよう一層の努力をいたしたいと考えております。

終りに、本書の作成に当りいろいろご協力いただいた関係市町村教育委員会および関係各位に厚く御礼を申しあげるとともに、今後とも一層のご指導とご協力を賜わりますようお願い申しあげます。

昭和58年3月

秋田県埋蔵文化財センター所長

佐藤良太郎

目 次

序

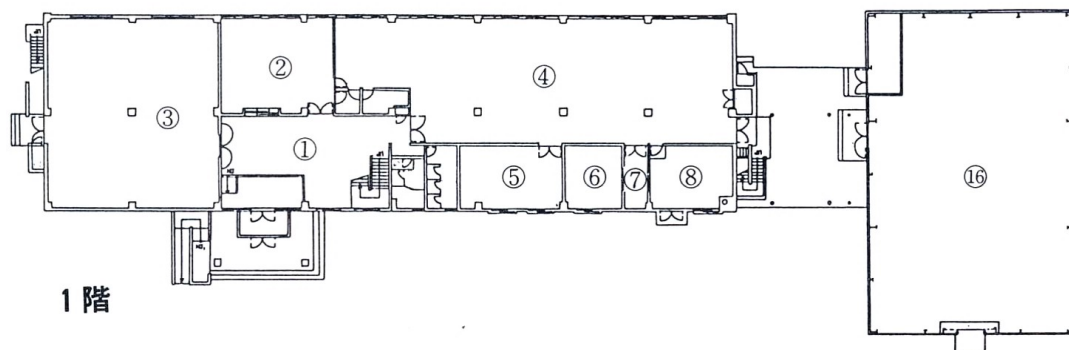
1. 施設の概要	 1
2. 昭和56年度事業内容	 2
3. 昭和57年度事業内容	 9
4. 収蔵設備	16
5. センターの歩み	18

1. 施設の概要

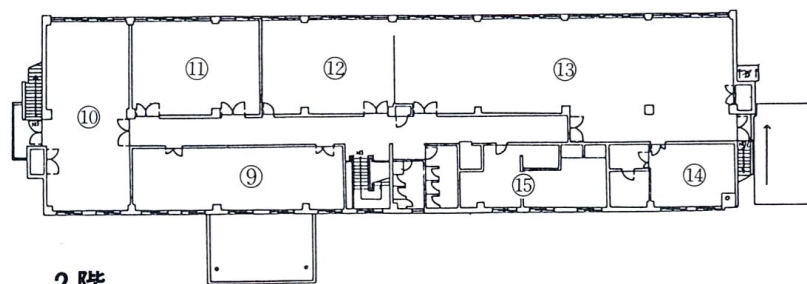
- 1) 敷地面積 5,827 m²
- 2) 建物概要
 - 管理棟／鉄筋コンクリート2階建
1,527 m² (延床面積)
 - 収蔵棟／鉄骨造平屋建
360 m² (延床面積)
- 3) 総事業費 339,965,000円
- 4) 工期 昭和55年10月26日～同年8月31日
- 5) 開館 昭和56年10月1日

各室の広さ (単位 m²)

No.	室 (内容)	面積
①	玄関ホール	101.310
②	事務室	64.275
③	特別収蔵庫	191.255
④	第一整理室	264.920
⑤	木器保存処理室	40.000
⑥	鉄器保存処理室	22.500
⑦	乾燥室	10.950
⑧	機械室	31.550
⑨	資料室	79.150
⑩	第一研修室	94.250
⑪	第二研修室	73.125
⑫	研究室	74.625
⑬	第二整理室	219.500
⑭	写場・暗室	48.750
⑮	休憩室・ロッカー室	52.765
	廊下	85.090
	便所・洗面所	46.520
	湯沸室	7.485
	物入	19.284
	計 (本館)	1,527.304
⑯	収蔵庫 (平屋建)	360.000
	合計	1,887.304



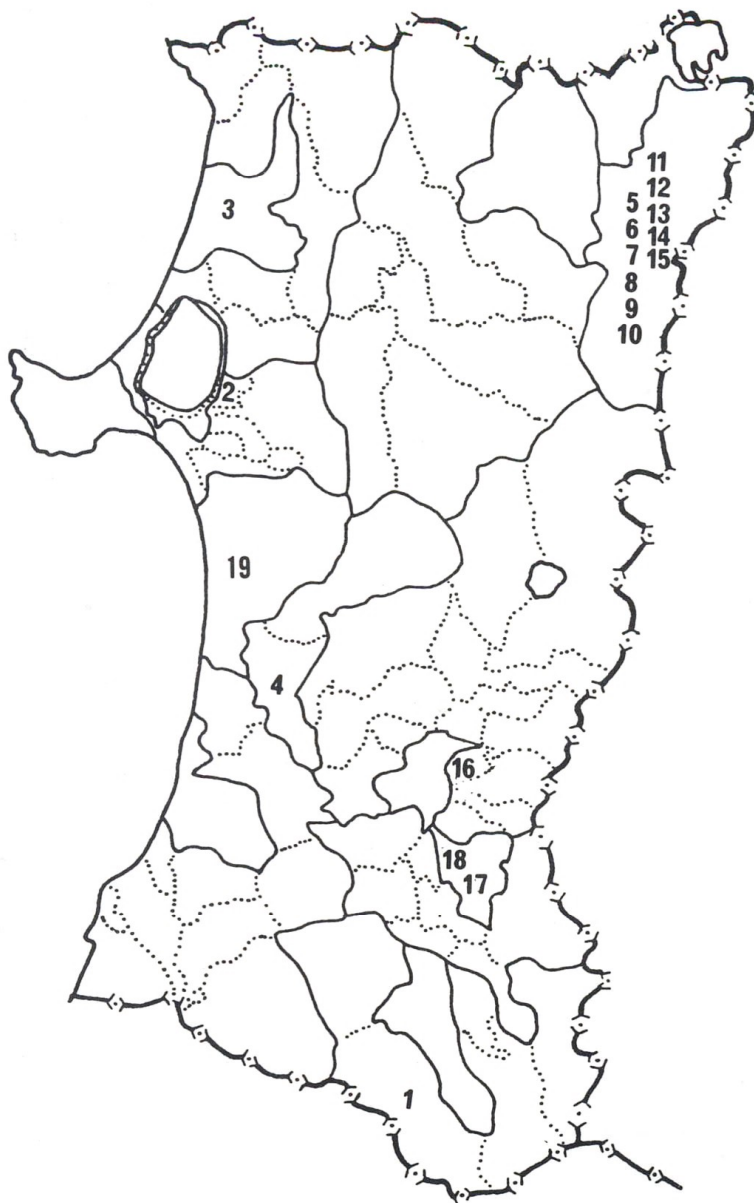
1階



2階

2. 昭和56年度事業内容

昭和56年度県内調査遺跡地図



※地図中番号は次頁表中番号と対応

(1) 昭和56年度県内調査遺跡一覧

図面 番号	遺 跡 名	調 査 期 間	所 在 地	面 積	時 代	原 因	調 査 主 体
1	桐 木 田 遺 跡	S55.7.28~10.31 S56.4.13~5.13	雄 勝 町	7,100	中世~近世	圃 場 整 備	秋 田 県 教 委
2	蒲 沼 遺 跡	S56.6.1~6.30	八 郎 潟 町	1,075	平 安 中世~近世	圃 場 整 備	秋 田 県 教 委
3	腹 鞆ノ沢遺跡	S56.5.11~10.20	能 代 市	11,582	縄文, 平安	国営能代開拓	秋 田 県 教 委
4	滝ノ沢Ⅰ,Ⅱ 駒坂袋Ⅰ,Ⅱ遺跡	S56.4.6~5.20	雄 和 町	3,704	旧 石 器 縄 文	県立中央公園建設	秋 田 県 教 委
5	柏 木 森 遺 跡	S56.7.9~11.6	鹿 角 市	10,776	縄 文	東北自動車道工事	秋 田 県 教 委
6	中ノ崎遺跡	S55.8.22~12.12 S56.5.25~11.14	鹿 角 市	19,158	縄文, 平安	東北自動車道工事	秋 田 県 教 委
7	案 内 Ⅲ 遺 跡	S56.4.20~8.22	鹿 角 市	2,223	縄文, 平安	東北自動車道工事	秋 田 県 教 委
8	猿ヶ平Ⅱ遺跡	S56.4.20~7.20	鹿 角 市	5,800	縄 文	東北自動車道工事	秋 田 県 教 委
9	妻ノ神Ⅰ遺跡	S56.4.20~8.12	鹿 角 市	4,432	平安, 中世	東北自動車道工事	秋 田 県 教 委
10	妻ノ神Ⅲ遺跡	S56.4.20~8.30	鹿 角 市	7,200	中 世	東北自動車道工事	秋 田 県 教 委
11	乳 牛 平 遺 跡	S56.4.16~8.11	鹿 角 市	3,050	中 世	東北自動車道工事	秋 田 県 教 委
12	室 田 遺 跡	S56.4.13~4.19	鹿 角 市	270	中 世	東北自動車道工事	秋 田 県 教 委
13	一 本 杉 遺 跡	S56.9.1~10.31	鹿 角 市	3,000	縄文, 平安	東北自動車道工事	秋 田 県 教 委
14	明 堂 長 根 遺 跡	S56.7.2~9.18	鹿 角 市	6,272	縄 文	東北自動車道工事	秋 田 県 教 委
15	高市向館遺跡	S56.5.6~7.11	鹿 角 市	7,600	平安, 中世	中学校建設	鹿 角 市 教 委
16	払 田 柵 跡	S56.4.8~12.16	仙 北 町	2,239	平 安	学 術 調 査	秋 田 県 教 委
17	大 鳥 井 山 遺 跡	S56.9.5~9.11	横 手 市	428	平安, 中世	野 球 場 建 設	横 手 市 教 委
18	オホン清水遺跡	S56.7.12~11.5	横 手 市	5,156	縄 文	圃場整備事業	横 手 市 教 委
19	秋 田 城 跡	S56.4.7~12.12	秋 田 市	2,325	奈良, 平安	学 術 調 査	秋 田 市 教 委

(2) 調査概要

表 1

遺 跡 名：桐木田遺跡	所 在 地：雄勝郡雄勝町小野字飯塚
事 業 名：県営圃場整備事業	事業関係機関：県農政部
調査期間：昭和55年7月28日～10月31日、昭和56年4月13日～5月13日	調査面積：7,100m ²
担 当 者：大 野 憲 司	時 期：中世～近世初期

雄物川と役内川に挟まれた標高 130m 程の自然堤防上に立地する。堀跡 3 条、土橋 2 基、溝跡 11 条、掘立柱建物跡 12 棟、竪穴住居跡 9 棟、方形竪穴状遺構 32 基、長方形竪穴状遺構 33 基、土壇 16 基、集石遺構 5 基を検出している。遺物は中世～近世初期のものが多く、珠洲系、明青磁、黄瀬戸、明染付、初期伊万里などの陶磁器類や硯、砥石等の石製品が出土している。

表 2

遺 跡 名：蒲沼遺跡	所 在 地：南秋田郡八郎潟町蒲沼 150—1 他
事 業 名：県営圃場整備事業関連水路拡幅工事	事業関係機関：県農政部
調査期間：昭和56年 6 月 1 日～6 月 30 日	調査面積：1,075m ²
担 当 者：柴 田 陽一郎	時 期：平安時代、中世～近世初期

八郎潟の湖東平野、標高 2 m の沖積地に立地する。検出された遺構はなく、平安時代の土師器、須恵器と 16 世紀後半～17 世紀初頭の初期伊万里、唐津系、明末の陶磁器と籬木、底板、箸等の木製品を出土している。

表 3

遺 跡 名：腹鞍の沢遺跡	所 在 地：能代市腹鞍の沢 18—5 他
事 業 名：国営能代開拓建設事業	事業関係機関：東北農政局能代開拓建設事業所
調査期間：昭和56年 5 月 11 日～10 月 20 日	調査面積：11,582m ²
担 当 者：永瀬福男、熊谷太郎	時 期：縄文時代、平安時代

米代川の左岸、標高 35m 程の段丘上に位置する。A、C、D の 3 地区が調査され、平安時代の竪穴住居跡 4 棟、T ピット 10 基、袋状土壇 10 基を検出している。遺物として平安時代の土師器、須恵器、縄文時代後期の土器及びそれに伴ったと思われる石器類を出土している。

表 4

遺 跡 名：滝の沢 I 遺跡、同 II 遺跡、駒坂袋 I 遺跡、同 II 遺跡	所 在 地：河辺郡雄和町椿川字滝ノ沢及び駒坂袋
事 業 名：県立中央公園建設事業	事業関係機関：
調査期間：昭和56年 4 月 6 日～5 月 2 日	調査面積：3,704m ²
担 当 者：富樫泰時、柴田陽一郎、高橋忠彦	時 期：旧石器時代、縄文時代

駒坂袋 I 遺跡からは縄文時代中期末の住居跡 2 棟、土壇 9 基、炉跡 2 基を検出、また駒坂袋 II 遺跡からは縄文時代晩期と思われる住居跡 2 棟、土壇 5 基を検出している。遺物は駒坂袋 I 遺跡から旧石器及び縄文時代中期の土器とそれに伴ったと思われる石器類、また駒坂袋 II 遺跡からは縄文時代晩期の土器を出土している。

表 5

遺 跡 名：柏木森遺跡	所 在 地：鹿角市花輪字柏木森 44 他
事 業 名：東北自動車道建設工事	事業関係機関：日本道路公団仙台建設局
調査期間：昭和56年 7 月 9 日～11 月 6 日	調査面積：10,776m ²
担 当 者：岩見誠夫、小林 克	時 期：縄文時代早期末～前期、晩期

標高 200m 前後の西へ向うゆるい斜面上に位置する。袋状土壇 50 基余りを検出し、内部から縄文時代晩期初頭の土器を出土している。他に縄文時代早期末～前期初頭の遺物も検出している。

表 6

遺 跡 名：中の崎遺跡	所 在 地：鹿角市花輪字中の崎95他
事 業 名：東北自動車道建設事業	事業関係機関：日本道路公団仙台建設局
調査期間：昭和55年8月22日～12月12日、昭和56年5月25日～11月14日	調査面積：19,158㎡
担 当 者：橋 本 高 史	時 期：縄文時代前・中・後・晩期、弥生時代、平安時代

米代川右岸の高位段丘上に位置する。遺跡面積が広いため、2カ年で発掘調査を行った。遺跡は大きく3つの台地からなるため、南からⅠ～Ⅲ区とした。Ⅰ区はゆるやかに北側にくだる平坦なところで、遺構は縄文時代竪穴住居跡1棟、平安時代竪穴住居跡8棟、土壇14基、合口甕棺1基である。平安時代の竪穴住居跡のうち4棟は溝を付設している。Ⅱ区は2段の台地からなり、遺構分布もまばらである。遺構は平安時代竪穴住居跡11棟、土壇18基、掘立柱建物跡4棟である。SI104からは土師器の鍋とともに坏が多数出土したのが注目される。Ⅲ区は北側の細長い舌状台地で、平安時代竪穴住居跡1棟が検出された。

表 7

遺 跡 名：案内Ⅲ遺跡	所 在 地：鹿角市花輪字案内22他
事 業 名：東北自動車道建設工事	事業関係機関：日本道路公団仙台建設局
調査期間：昭和56年4月20～8月22日	調査面積：2,223㎡
担 当 者：小 林 克	時 期：縄文時代後期、平安時代

標高 200m 程の台地緩斜面上に位置する。縄文時代の住居跡6棟、土壇17基、平安時代の住居跡13棟を検出している。遺物として平安時代の土師器甕、須恵器壺等の土器、鉄鏃、穂摘具、鉄斧等の鉄器、炭化米、炭化豆類などの植物遺存体、縄文時代後期の土器片及びそれに伴う石器類を出土している。

表 8

遺 跡 名：猿ヶ平Ⅱ遺跡	所 在 地：鹿角市花輪字猿ヶ平144他
事 業 名：東北自動車道建設工事	事業関係機関：日本道路公団仙台建設局
調査期間：昭和56年4月20日～7月20日	調査面積：5,800㎡
担 当 者：岩 見 誠 夫	時 期：縄文時代早期～晩期

標高 164m の舌状台地上に立地する。検出遺構は縄文時代中期末～後期初頭の竪穴住居跡4棟、後期末～晩期前葉の竪穴住居跡4棟、フラスコ状ピット23基、土壇17基、Tピット2基で遺物としては早期赤御堂式、前期円筒下層式、中期大木10式、後期十腰内式、晩期大洞式土器片及びそれに伴う石鏃、磨製石斧などの石器類が出土している。

表 9

遺 跡 名：妻の神Ⅰ遺跡	所 在 地：鹿角市花輪字妻の神31他
事 業 名：東北自動車道建設事業	事業関係機関：日本道路公団仙台建設局
調査期間：昭和56年4月20日～8月12日	調査面積：4,432㎡
担 当 者：橋 本 高 史	時 期：縄文時代中・後期、平安時代

米代川右岸の中位段丘面上に位置する。現況でも堀跡が確認でき、中世の館跡ということで調査を始めたが、遺構・遺物ともに平安時代のものが多くを占めた。

遺跡は堀によって独立したⅠ郭とその南側のⅡ郭、北側のⅢ郭からなる。検出遺構は次のとおりである。Ⅰ郭……竪穴住居跡23棟、土壇12基、Ⅱ郭……竪穴住居跡10棟、土壇10基、Ⅲ郭……なし。遺物では、秋田県内で出土例の少ない把手付土器がいずれも竪穴住居跡内から7点出土したことが注目される。

表10

遺 跡 名：妻ノ神Ⅲ遺跡	所 在 地：鹿角市花輪字妻ノ神 3 他
事 業 名：東北自動車道建設工事	事業関係機関：日本道路公団仙台建設局
調査期間：昭和56年 4 月20日～ 8 月30日	調査面積：7,200m ²
担 当 者：桜 田 隆	時 期：縄文時代中期末～後期初、中世

所謂鹿角42館の1つで「鹿角由来記」に「一、血牛村血牛六郎領知本名阿保館有」と記載されている血牛（乳牛）館の主要郭部分の調査で、縄文時代の竪穴住居跡 2 棟、中世の張り出し部のある竪穴遺構41棟、掘立柱建物跡約 100棟、焼土（屋外かまど）遺構58基の他、土壙墓、柵列跡等が検出された。遺物の出土は極めて少量であるが、縄文土器、石器の他、銅鏡片、貨幣、馬具、人骨（2 体）が出土した。遺跡中央部に黄褐色浮石質火山灰の広範な堆積が認められ、中世の遺構はこの層を掘り込んでいる。

表11

遺 跡 名：乳牛平遺跡	所 在 地：鹿角市花輪字乳牛平16他
事 業 名：東北自動車道建設工事	事業関係機関：日本道路公団仙台建設局
調査期間：昭和56年 4 月16日～ 8 月11日	調査面積：3,050m ²
担 当 者：小 玉 準	時 期：縄文時代前・後期、弥生時代中期、中世

遺跡は標高160m程の舌状台地を利用した中世城館であり、Ⅰ～Ⅴの郭とそれを取りまく堀からなる。郭平場からは竪穴状遺構32、掘立柱建物跡 2 棟、柱列 2、焼土遺構50が検出された。乳牛館の一部と考えられる。

表12

遺 跡 名：一本杉遺跡	所 在 地：鹿角市花輪字一本杉29他
事 業 名：東北自動車道建設工事	事業関係機関：日本道路公団仙台建設局
調査期間：昭和56年 9 月 1 日～10月31日	調査面積：3,000m ²
担 当 者：桜 田 隆	時 期：縄文時代早期、中期、後期、平安時代

標高210～220mの緩やかな傾斜面をもつ段丘面上、山地と段丘面の接する地帯に位置する。平安時代の竪穴住居跡 9 棟、掘立柱建物跡 3 棟は、埋土に黄褐色浮石質火山灰粒を混入している。遺物は貝殻文土器片等縄文時代の遺物の他、平安時代の土師器、須恵器の出土が多い。特に SI013竪穴住居跡の土器セットは注目に値する。

表13

遺 跡 名：明堂長根遺跡	所 在 地：鹿角市花輪字明堂長根 1—1 他
事 業 名：東北自動車道建設工事	事業関係機関：日本道路公団仙台建設局
調査期間：昭和56年 7 月 2 日～ 9 月18日	調査面積：6,272m ²
担 当 者：小 玉 準	時 期：縄文時代晩期初頭

標高 215mの北西向きの緩斜面に位置する。縄文時代晩期のフラスコ状ピット37基の他、溝 8 条、掘立柱建物跡 1 棟、その他の遺構 5 が検出された。底部から完形の台付鉢 2 点出土したフラスコが 1 基ある。

表14

遺 跡 名：払田柵跡	所 在 地：仙北郡仙北町払田、千畑村本堂城廻
事 業 名：払田柵跡学術調査	事業関係機関：
調査期間：昭和56年 4 月 8 日～12月16日	調査面積：2,239m ²
担 当 者：船木義勝、山崎文幸	時 期：平安時代

第38次～第45次発掘調査まで 8 地点実施した。調査は内外郭間における官衙ブロックの把握、内郭線南側の位置確認、外郭線南東部の位置確認を目的として実施し、築地土堀跡 1、角材列跡 1、掘立柱建物跡 5 棟、溝10条、土壙 3 基などの遺構を検出した。

(3) 研修事業

a. 昭和56年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会

- i) 目的 秋田県教育委員会が行った埋蔵文化財の緊急発掘調査及び学術調査について、その成果を報告して、本県の歴史について理解を深めるとともに、文化財保護に資することを目的とする。

ii) 日時 昭和57年3月14日(日) 9時30分～15時30分

iii) 報告遺跡

①東北自動車道関係(鹿角市所在)

- | | | |
|-------------------------|-------|-------|
| ①a 猿ヶ平Ⅱ遺跡(縄文時代) | 副所長 | 岩見 誠夫 |
| ①b 案内Ⅲ遺跡(縄文・平安時代) | 文化財主事 | 小林 克 |
| ①c 妻ノ神Ⅰ遺跡(縄文・平安時代) | 文化財主事 | 橋本 高史 |
| ①d 妻ノ神Ⅲ遺跡(縄文・平安時代・中世) | 文化財主事 | 桜田 隆 |
| ①e 乳牛平遺跡(縄文・弥生・平安時代・中世) | 文化財主事 | 小玉 準 |

②国営能代開拓事業関係

- | | | |
|--------------------|--------|-------|
| ②a 腹鞆ノ沢遺跡(縄文・平安時代) | 社会教育主事 | 永瀬 福男 |
|--------------------|--------|-------|

③市町村関連

- | | | |
|-------------------------|--------|-------|
| ③a 脇本埋没家屋小谷地遺跡(弥生・古墳時代) | 文化財主事 | 高橋 忠彦 |
| ③b 桐木田遺跡(中世・近世初) | 社会教育主事 | 大野 憲司 |

b. センター開所式記念講演会

- i) 日時
- ii) 講演者 国学院大学助教授 小林達雄
- iii) 演題 『縄文人思考』
- iv) 要旨

「縄文文化」というものはどういうものなのかを調べてきたのがこれまでの研究のあり方だったのですが、最近になってこれまでの研究の他にもう一つ重要なことがあるのではないかと気がつき始めました。それは現代に生きている私と縄文文化の真剣な会話の中で縄文文化と現在の社会・文化と対等に真剣に比較してみることです。

土器作りは約1万年前に始まりましたが、これはV・Gチャイルドの指摘するように人類が化学変化を応用した最初の出来事であるという大きな意味をもっているとされています。しかし、私の考えによればこれは「土器作り」の一側面にしかすぎないのです。人類は土

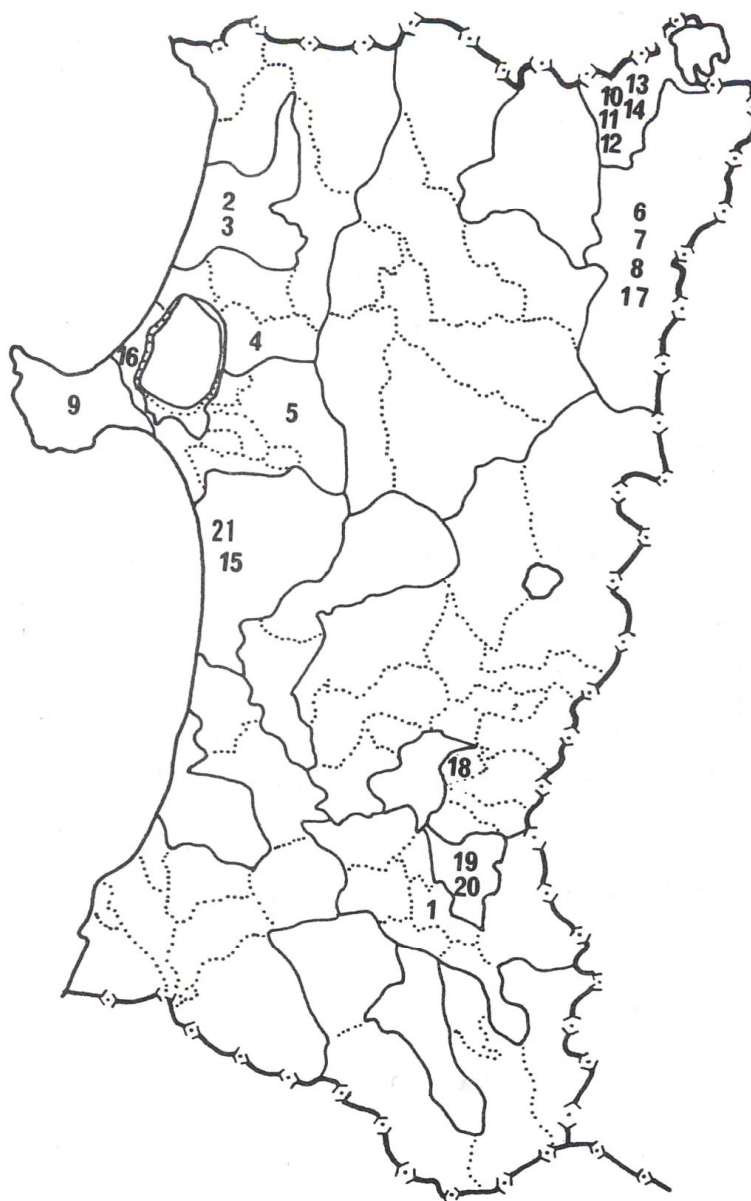
器を作ることによって技術的な面ばかりでなく、技術的、文化的な多くの要素を総合する力を身につけたのです。土器作りの開始が人間に与えた歴史的影響、つまり文化的、社会的効果は非常に大きく、食生活の安定、衛生学的進歩、栄養学的進歩などをもたらし、縄文文化が形成され、伝達されてゆく下地ができあがったのです。土器作りは17世紀にヨーロッパで起った産業革命とも言える出来事であったのです。

縄文土器には容器としての機能の他に、思考の反映というもう1つの大事な機能があります。そして縄文時代の思考の中にこそ現代人が失ってしまったもの忘れてしまった本当に大事なものの原形を見つけることができます。縄文人の生活に密着した多種多様の知識は相当なものがあり、集団の中での自己の役割を各々が認識し、自己の行動は集団の中に位置づけられていたと思われます。しかし、人類の歴史の中の大きな柱の1つである効率、能率の追求が進むそとにより、現代においては集団の中における自己の位置づけというものができず、多くの集団に属したり、関係したりしていながらも分担し与えられた役割を果たす機能の一部でしかあり得ない孤立化した状態を生みだしています。縄文人は全ての情報を共有し全てが生活に密着していましたが、現代人は情報を分担して所有し、生活にもほとんど影響ありません。

人類の歴史の根本である効率、能率の追求によって多様性が疎外され個性が無くなりつつあります。また、自然のシステムを破壊し始めたのも効率、能率を追求した結果なのです。集団または最小集団である家族の中においてさえ孤立がある現在、これが果して繁栄であり、進歩と言えるか考えなくてははいけないでしょう。その事を考えた時私は人類に進歩はなかった。少なくとも進歩という言葉では説明できないものであったと思います。そんな時、現代の我々に私達が忘れてしまったものを積極的に問いかけてくれる程の完全な形の縄文システムというものを、縄文人は持っていたのです。

3. 昭和57年度事業内容

昭和57年度県内調査遺跡地図



※地図中番号は次頁表中番号と対応

(1) 昭和57年度県内調査遺跡一覧

図面 番号	遺 跡 名	調 査 期 間	所 在 地	面 積	時 代	原 因	調 査 主 体
1	平 鹿 遺 跡	S57.4.13～8.30	増 田 町	7,650	縄文, 平安	土壌汚染対策	秋 田 県 教 委
2	蟻ノ台遺跡	S57.9.1～9.14	能 代 市	465	縄 文	国営能代開拓	秋 田 県 教 委
3	真壁地遺跡	S57.9.6～12.4	能 代 市	5,645	縄文, 平安	国営能代開拓	秋 田 県 教 委
4	高石野遺跡	S57.5.6～7.10	琴 丘 町	1,240	縄 文	畑 地 改 良	琴 丘 町 教 委
5	中 山 遺 跡	S57.7.12～8.20	五城目町	800	縄 文	分 布 調 査	五城目町教委
6	案内Ⅲ遺跡	S57.6.15～8.10	鹿 角 市	2,140	縄 文	バイパス工事	秋 田 県 教 委
7	案内Ⅴ遺跡	S57.7.7～10.9	鹿 角 市	2,070	縄文, 平安	バイパス工事	秋 田 県 教 委
8	案内Ⅵ遺跡	S57.9.2～10.22	鹿 角 市	2,040	縄 文	バイパス工事	秋 田 県 教 委
9	小浜沢遺跡	S57.4.20～5.1	男 鹿 市	500	縄 文	バイパス工事	秋 田 県 教 委
10	はりま館遺跡	S57.8.10～9.20	小 坂 町	12,608	縄文, 平安	東北自動車道工事	秋 田 県 教 委
11	横 館 遺 跡	S57.8.10～9.20	小 坂 町	3,700	縄文, 弥生	東北自動車道工事	秋 田 県 教 委
12	大岱Ⅰ遺跡	S57.6.7～9.11	小 坂 町	18,624	縄文, 弥生	東北自動車道工事	秋 田 県 教 委
13	大岱Ⅱ遺跡	S57.9.13～10.30	小 坂 町	1,665	縄 文	東北自動車道工事	秋 田 県 教 委
14	大岱Ⅳ遺跡	S57.9.13～10.30	小 坂 町	910	縄 文	東北自動車道工事	秋 田 県 教 委
15	臨空港新都市 開発関連遺跡	S57.8.2～12.15	秋 田 市	7,050	旧 石 器 縄 文	臨空港新都市 開 発 事 業	秋 田 市 教 委
16	横長根遺跡	S57.11.4～11.20	若 美 町	700	縄文, 弥生	宅 地 造 成	若 美 町 教 委
17	天 戸 森 遺 跡	S57.4.7～10.18	鹿 角 市	12,000	縄文, 平安	中学校建設	鹿 角 市 教 委
18	払 田 柵 跡	S57.4.2～12.11	仙 北 町	2,059	平 安	学 術 調 査	秋 田 県 教 委
19	オホン清水北遺跡	S57.4.12～6.18	横 手 市	2,904	縄 文	圃場整備事業	横 手 市 教 委
20	大鳥井山遺跡	S57.7.19～12.13	横 手 市	3,105	縄文, 平安 中 世	野 球 場 建 設	横 手 市 教 委
21	秋 田 城 跡	S57.4.5～11.10	秋 田 市	1,878	奈良, 平安	学 術 調 査	秋 田 市 教 委

(2) 調査概要

表15

遺 跡 名：平鹿遺跡	所 在 地：平鹿郡増田町増田字平鹿57他
事 業 名：土壌汚染対策事業	事業関係機関：県農政部
調査期間：昭和57年4月13日～8月30日	調査面積：7,650㎡
担 当 者：小 玉 準	時 期：縄文時代晩期、弥生時代中期、平安時代

雄物川支流、成瀬川右岸の標高112mの扇状地に位置する。130基の土壙、31基の配石を伴う土壙墓、34基の土器埋設遺構、30基の石囲炉、配石遺構、土器集積遺構、捨場等の遺構が確認されている。また平安時代の遺構としては竪穴住居跡、竪穴遺構が検出されている。晩期の遺物として土器類、石冠、石刀、石棒、石斧等の石器類、玉類等が出土している。

表16

遺 跡 名：蟻ノ台遺跡	所 在 地：能代市中沢字蟻ノ台4他
事 業 名：国営能代開拓建設事業	事業関係機関：東北農政局能代開拓建設事業所
調査期間：昭和57年9月1日～9月14日	調査面積：465㎡
担 当 者：熊 谷 太 郎	時 期：縄文時代後期

現米代川の左岸、浅内沼の東方、標高35m前後の台地上に位置する。調査面積が小さく、遺構の検出もなかったが、埋設土器1個体と炭焼窯1基を検出している。

表17

遺 跡 名：真壁地遺跡	所 在 地：能代市真壁地字野畑50他
事 業 名：国営能代開拓建設事業	事業関係機関：東北農政局能代開拓建設事業所
調査期間：昭和57年9月6日～12月4日	調査面積：5,645㎡
担 当 者：熊 谷 太 郎	時 期：縄文時代後期、平安時代

米代川の右岸、標高20m程の台地上に位置する。平安時代の住居跡3棟、縄文時代の土壙74基、その他溝跡2基を検出している。土壙内からは多くの土器片、石器類を出土している。平安時代の竪穴住居跡からは土師器、須恵器の類が出土している。また弥生時代の土器も何点か出土している。

表18

遺 跡 名：高石野遺跡	所 在 地：秋田県山本郡琴丘町鹿渡字高石野1他
事 業 名：畑地改良事業	事業関係機関：
調査期間：昭和57年5月6日～7月10日	調査面積：1,240㎡
担 当 者：桜 田 隆	時 期：縄文時代晩期

縄文時代後期末葉から晩期中葉に至る遺跡である。晩期の住居跡とも思われる柱穴群を検出している。遺物としては縄文時代後晩期の各種の土器と石冠、石棒、石剣、石鏃、石錐、石匙等の石器を出土している。また土笛と思われる海獣？を形どった土製品も出土している。

表19

遺 跡 名：中山遺跡	所 在 地：南秋田郡五城目町高崎字中泉田26他
事 業 名：分布調査	事業関係機関：
調査期間：昭和57年7月12日～8月20日	調査面積：800m ²
担 当 者：熊 谷 太 郎	時 期：縄文時代後期末～晩期初頭

標高30m程の河岸段丘上に位置し、調査区は緩い斜面上とその下の湿地帯に設けられた。住居跡2棟、土壇43基、土壇墓10基、配石2基を検出している。土壇墓内からは多量の土器とともに骨片が少量出土している。遺物は後晩期の土器の他、石鏃、石匙、石斧、石剣等の石器類が出土している。

表20

遺 跡 名：案内Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ遺跡	所 在 地：鹿角市花輪字案内23番地他
事 業 名：県道田山・花輪線第一種特殊改良工事事業	事業関係機関：県土木部
調査期間：昭和57年6月15日～10月22日	調査面積：案内Ⅲ…2,140m ² 、Ⅴ…2,070m ² 、Ⅵ…2,040m ²
担 当 者：橋 本 高 史	時 期：縄文時代前・中・晩期、弥生時代、平安時代

米代川右岸の高位段丘上に位置する。道路予定線はこの台地をほぼ東西に横切っており、遺跡は西から案内Ⅳ・Ⅲ・Ⅴ・Ⅵの順である。調査は2カ年継続事業で、昭和57年度は案内Ⅲ全域とⅤ、Ⅵの一部を行った。

遺構は案内Ⅲからは土壇2基、Ⅴからは縄文時代炉跡2基、フラスコ状ピット2基、平安時代竪穴住居跡3棟、Ⅵからは掘立柱建物跡1棟が検出された。

表21

遺 跡 名：はりま館遺跡	所 在 地：鹿角郡小坂町小坂字下上ノ山37他
事 業 名：東北自動車道建設工事	事業関係機関：日本道路公団仙台建設局
調査期間：昭和57年8月10日～11月20日	調査面積：12,608m ²
担 当 者：柴 田 陽一郎	時 期：縄文時代前期、後期、平安時代

標高200m程の台地上に位置する。縄文時代前期の住居跡6棟、後期の住居跡1棟、平安時代の住居跡8棟、土壇19基、Tピット14基、埋設土器5を検出している。縄文時代前期の住居跡のうち3棟は大形住居である。遺物としては各時期の土器の他、それに伴う石器、また平安時代のものとしては土器類の他、フイゴの羽口、丸玉、勾玉状の土製品を出土している。

表22

遺 跡 名：横館遺跡	所 在 地：鹿角郡小坂町小坂字横館22他
事 業 名：東北自動車道建設工事	事業関係機関：日本道路公団仙台建設局
調査期間：昭和57年8月10日～9月20日	調査面積：3,700m ²
担 当 者：永 瀬 福 男	時 期：縄文時代前期、弥生時代

標高200m程の台地上に位置する。フラスコ状土壇4基、焼土遺構26基を検出している。遺物としては縄文時代前期の土器とそれに伴う石器類、及び弥生時代の土器を若干量出土している。

表23

遺 跡 名：大岱Ⅰ遺跡	所 在 地：鹿角郡小坂町小坂字大岱1他
事 業 名：東北自動車道建設工事	事業関係機関：日本道路公団仙台建設局
調査期間：昭和57年6月7日～9月11日	調査面積：18,624㎡
担 当 者：大 野 憲 司	時 期：縄文時代前期、後期、弥生時代

標高230m程の台地上に位置する。縄文時代前期の住居跡1棟、縄文時代後期の住居跡2棟、土壇8基、袋状土壇3基、Tピット2基、弥生時代土壇墓2基と他に焼土遺構を検出する。遺物として縄文時代前期から晩期に至る土器及び石器類、弥生時代の土器を出土している。

表24

遺 跡 名：大岱Ⅱ遺跡	所 在 地：鹿角郡小坂町小坂字大岱8他
事 業 名：東北自動車道建設工事	事業関係機関：日本道路公団仙台建設局
調査期間：昭和57年9月13日～10月30日	調査面積：1,665㎡
担 当 者：小 林 克	時 期：縄文時代後期

標高250～260m程の台地上に位置する。縄文時代後期と思われる土壇9基と縄文時代よりも新しい時期（大湯浮石層の上面から構築されている）の土壇7基を検出している。遺物は縄文時代後期の土器片が多く、石器では剥片が多い。また縄文時代より新しい時期の土壇内から多量の炭を出土している。

表25

遺 跡 名：大岱Ⅳ遺跡	所 在 地：小坂町小坂字大岱43他
事 業 名：東北自動車道建設工事	事業関係機関：日本道路公団仙台建設局
調査期間：昭和57年9月13日～10月30日	調査面積：910㎡
担 当 者：大 野 憲 司	時 期：縄文時代前期

大岱Ⅰ遺跡に至る取付道路部分の調査である。標高210～220m前後の台地上及び斜面上に位置する。縄文時代前期の竪穴住居跡3棟、時期不明の竪穴住居跡1棟、土壇5基を検出している。遺物としては、縄文時代前期の土器とそれに伴う石器類を出土している。また縄文時代前期の岩偶も出土している。

表26

遺 跡 名：払田柵跡	所 在 地：仙北郡仙北町払田、千畑村本堂城廻
事 業 名：払田柵跡学術調査	事業関係機関：
調査期間：昭和57年4月2日～12月11日	調査面積：2,059㎡
担 当 者：船木義勝、山崎文幸	時 期：平安時代

第46次～第52次発掘調査まで7地点実施した。調査は政庁域西部建物及び区画施設の有無と位置確認、内郭線東部の位置確認、及び内郭東門の検出、通称「ホイド清水」周辺の遺構検出を目的として実施し、掘立柱建物跡14棟、柱列跡2、角材列跡4、溝19条、井泉跡1、土壇18基などの遺構を検出した。

(3) 研修事業

a. 昭和57年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会

i) 日時 昭和58年3月13日(日)

ii) 報告遺跡

①東北自動車道関係(小坂町所在)

①a) はりま館遺跡(縄文・平安時代) 文化財主事 柴田陽一郎

①b) 大岱Ⅰ遺跡(縄文・弥生時代) 社会教育主事 大野 憲司

①c) 大岱Ⅳ遺跡(縄文時代) 社会教育主事 大野 憲司

②県道関係

②a) 案内Ⅴ遺跡(弥生・平安時代) 文化財主事 橋本 高史

②b) 小浜沢遺跡(縄文時代) 社会教育主事 熊谷 太郎

③土地改良事業関係

③a) 平鹿遺跡(縄文・弥生・平安時代) 文化財主事 小玉 準

④国営能代開拓事業関係

④a) 真壁地遺跡(縄文・平安時代) 社会教育主事 熊谷 太郎

⑤学術調査

⑤a) 払田柵跡(平安時代) 学芸主事 船木 義勝

⑥市町村関連

⑥a) 高石野遺跡(縄文時代) 文化財主事 桜田 隆

b. 昭和57年度秋田県埋蔵文化財センター研修会

i) 目的 埋蔵文化財発掘調査事業にかかわる考古学上の専門研修および関連諸科学の理解を深めるとともに、関係職員の資質向上をはかることを目的とする。

ii) 日時 昭和58年3月1日(火)～3月2日(水)

第1日 13:00～17:00 第2日 9:00～12:00

iii) 内容

第1日

①講義 「発掘調査の手順—発掘から報告書作成まで—」 副所長 岩見 誠夫

②研修テーマ 「考古学と自然科学のかかわり—遺跡と火山灰—」

〈講義〉 「遺跡における火山灰の位置」 社会教育主事 永瀬 福男

〈事例発表〉

①小坂町	はりま館遺跡	文化財主事	柴田陽一郎
②小坂町	大岱Ⅱ・Ⅳ遺跡	文化財主事	小林 克
③鹿角市	中の崎遺跡	文化財主事	橋本 高史
④鹿角市	北の林Ⅱ・妻の神Ⅲ遺跡	文化財主事	桜田 隆
⑤鹿角市	乳牛遺跡	社会教育主事	熊谷 太郎
⑥鹿角市	案内Ⅲ遺跡	文化財主事	小林 克
⑦仙北町	払田柵跡	主 事	山崎 文幸
⑧大曲市	藤木遺跡	社会教育主事	大野 憲司
⑨増田町	平鹿遺跡	文化財主事	小玉 準

〈講演〉 「東北地方の火山灰―秋田県の出土火山灰理解のために―」

東北大学農学部教授 庄司 貞雄

第2日

〈研究協議〉

①考古学と火山灰分析学について

イ、遺跡発見の火山碎屑物 ―種類と分類―

ロ、火山灰同定・分析の方法 ―可能性と限界―

②土壌の堆積状況の観察について

イ、遺構覆土内の火山灰の堆積状況

火山灰降下時期・遺構構築・廃絶の時期 文化財主事 小林 克

ロ、第1次堆積・第2次堆積・淘別作用 文化財主事 桜田 隆

③遺構の放射性炭素測定による年代と火山灰について 学芸主事 船木 義勝

4. 収蔵設備

(1) 特別収蔵庫

特別収蔵庫は、秋田県内の原始～中世を概観できるように、主な遺物を年代順に展示している。展示内容は、下記のとおりである。

〈旧石器時代〉

能代市館下Ⅰ・雄和町駒坂袋Ⅰ遺跡のナイフ形石器・搔器。

〈縄文時代〉

（早期）大館市鳶ヶ長根Ⅳ遺跡の土器・石器。（前期）能代市杉沢台・増田町梨ノ木塚・駒坂袋Ⅰ遺跡の土器・石器。（中期）館下Ⅰ・大内町才の神・千畑村内村・駒坂袋Ⅰ・梨ノ木塚遺跡の土器・石器。（後期）鳶ヶ長根Ⅳ・鹿角市北の林Ⅱ・鹿角市飛鳥平・大館市萩峠・大館市塚ノ下・東由利町片符沢・鷹巣町藤株遺跡の土器・石器・土偶・スタンプ状土製品・鐸形土製品・三角石製品・三脚石器。（晩期）藤株・東由利町湯出野・大館市鳶ヶ長根Ⅲ・梨ノ木塚・増田町平鹿遺跡の土器・石器・石剣・石刀・独鈷石・装身具・耳飾り・土偶・三角土製品・ミニチュア土器・岩版・土版・小玉。

〈弥生時代〉

由利町上ノ台・鳶ヶ長根Ⅳ遺跡の土器。

〈古代〉

弘田柵・内村・塚ノ下・大曲市藤木・鹿角市歌内遺跡の土師器・須恵器・墨書土器・緑釉・木簡・瓦・硯・角材・刀子・鉄鏃。

〈中世〉

内村・雄勝町桐木田・雄勝町鶴沼城・峰浜村中田面遺跡の陶磁器。

公開時間

9：00～16：00

休日

毎週木曜日・元日・
成人の日・建国記念
日・春分の日・1月
1日～3日、12月
28～31日

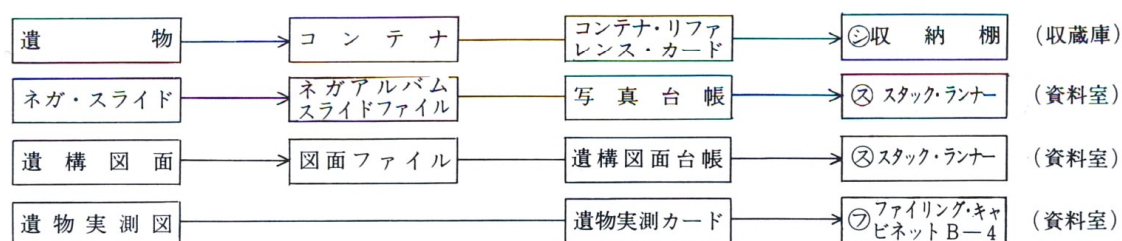


(2) 収蔵庫

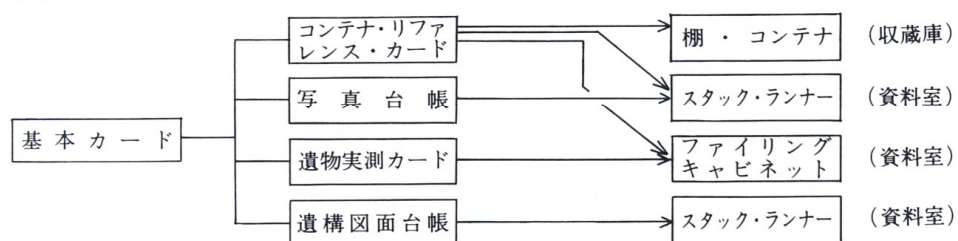
収蔵庫は、発掘調査で検出された遺物を、収蔵する施設である。遺物は次のような流れをたどって、収蔵庫に入る。発掘調査による検出→洗い→注記→復元→実測・拓本・写真撮影→コンテナ収納→収蔵庫。なお、ネガフィルム・スライド・遺構図面・遺物実測図等は、資料室に収納される。

当センターでは、資料（遺物・ネガ・スライド・図面）の整理・収蔵・検索のために下記のようなシステムを採用している。

〈整理・収蔵システム〉



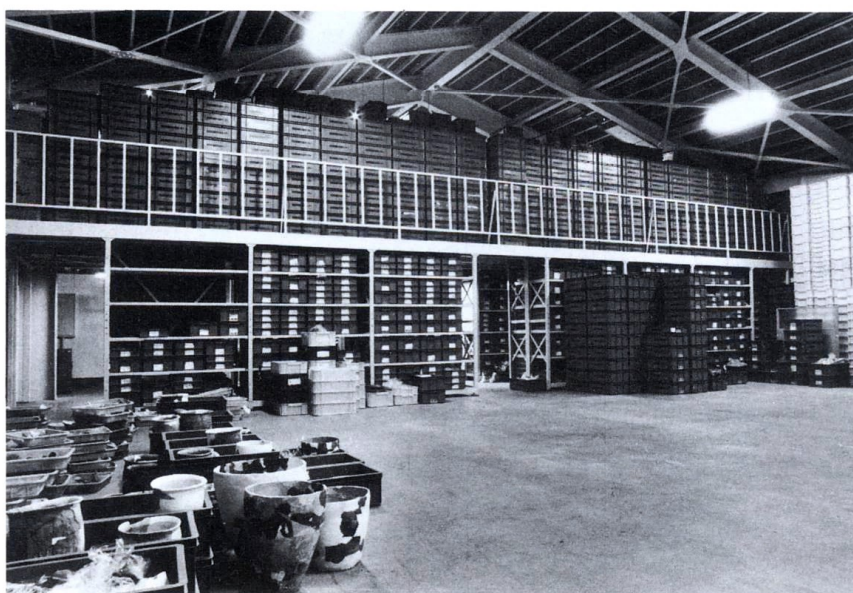
〈検索システム〉



なお、地元で遺物の保管を希望する場合は、一括収蔵出来る施設のあることが条件となる。

昭和58年3月現在、下記の遺跡の遺物が収蔵されている。

湯出野・才の神・藤株・管沢・館下Ⅰ・梨の木塚・湯元・鶴沼城・片符沢・中田面・重兵衛台・カニガ台・矢石館・蒲沼・内村・大谷・竹生・杉沢台・駒坂袋・坂の上・竹原窯跡・逆川・塚の下・桐木田・此掛沢・上の山・蔦ヶ長根・萩峠・東北自動車道関係。



5. センターの歩み

昭和55年

- 2 月 秋田県埋蔵文化財センター設立計画公表。
- 10月26日 建設工事開始。

昭和56年

- 8 月31日 建物完成。
- 10月 1 日 秋田県埋蔵文化財センター設置条例施行、職員発令、業務開始。
- 11月 2 日 落成記念式典。
- 11月 3 日 特別収蔵庫一般公開、記念講演会（講師 小林達雄国学院大学助教授、演題「縄文人思考」）。
- 11月25日 文化庁文化財保護部記念物課仲野浩主任文化財調査官、仙北町払田柵跡環境整備審議会委員施設視察。
- 12月 7 日 昭和56年度の発掘調査完了。

昭和57年

- 3 月14日 昭和56年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会開催。
- 4 月 6 日 昭和57年度の発掘調査開始。
- 8 月 3 日 常陸宮殿下・同妃殿下御来臨、親しくセンターの諸施設、払田柵跡発掘調査現場を御視察。
- 10月23日 文化庁文化財保護部記念物課牛川喜幸主任文化財調査官施設視察。
- 10月24日 秋田県生涯教育センター、コミュニティカレッジ「考古学セミナー」開講。
- 12月16日 センター職員講座を担当。
- 12月 9 日 昭和57年度の発掘調査完了。

昭和58年

- 3 月 1 日 昭和57年度埋蔵文化財担当者研修会開催（研修テーマ「秋田県の出土火山灰について」 講師 庄子貞雄東北大学教授）。
- 3 月 2 日
- 3 月13日 昭和57年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会開催。
- 3 月31日 「秋田県埋蔵文化財センター年報1（昭和57年度）」刊行。

秋田県埋蔵文化財センター 年報 1
(昭和57年度)

昭和58年 3 月31日 刊行

刊 行 : 秋 田 県 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー
秋田県仙北郡仙北町弘田字牛嶋20番地
T E L 01862-9-3331

印 刷 : 秋田マイクロ写真印刷株式会社
秋 田 市 寺 内 字 蛭 根 85 番 69
T E L 0188-23-7161